日本女性会議2005ふくい

「女と男が創る豊かな未来、ともに語ろう不死鳥の郷土で」に参加して

男女共同参画推進室長

昨年10月、日本女性会議に参加させていただいた。福井市の会場「フェニックスプラザ」は、福井県の県都にふさわしく、2,500名収容可能な立派な施設である。

多くのスタッフ・ボランティアの方々が、統一された制服で暖かく出迎えてくださった。この大会は１年以上も前から本大会開催に向けて準備を進めてきたとのこと。

基調講演は有馬真喜子先生による、「新しい時代の道しるべは男女共同参画社会」で、講演要旨の内容は次のとおりであった。

『わが国における男女共同参画社会の課題として、少子高齢化社会、産業構造の変化、情報社会の進展、家族構成の変化、地域の変化、環境の変化等があり、また、新しい分野として、科学技術の進展、防災への取組み、災害復興、地域おこしとまちづくり等がある。このような課題に対して活気ある持続可能な福祉社会を創るため、男女が共同で参画し、それぞれの課題に取り組むことが必要である。男女がいきいきと活躍するためには女性に対する支援が必要である。そのために、女性に対する暴力の根絶、女性の健康への適切な対応、男女の賃金格差や年金の是正、性別役割分担意識の改革が必要であるとのこと。時あたかも先の衆議院議員総選挙で43名にものぼる女性議員が誕生したことは画期的なことであった。

また、こうした流れや状況を踏まえ、男女共同参画は活力ある社会を創るため必要不可欠のものと認識を強め、それぞれの立場でとるべき行動が必要である。そのために、男性と女性、行政と民間も同じレベルの目線で付き合い、協力し、助け合って豊かなネットワークを築き、よりよい社会を創ること。そして常に、弱者の視点に立って考え進めなければならない。』との内容であった。

この講演をお聴きし、すぐには解決できないことも常日頃の努力により、あらゆる分野で男女がスクラムを組み、平和で健全な豊かな社会を築いていかねばならないと改めて認識しました。

編集後記

今号は身近な生活の様子を載せてみました。皆様の家庭・地域・生活の中で日頃感じていること、思うことなど、改めて考えてみる機会になれば幸いです。

過日、映画「ベアテの贈り物」を観ました。その中で、ベアテ・シロタ・ゴードンさん（日本国憲法24条の草案者）の言った、「戦後、憲法が施行されて57年。日本の女性の将来は明るい。今の日本の妻は盲目的に夫に従っていないものね。」という言葉が印象的でした。

「皇室典範改正案」により、「女性・女系天皇」誕生が話題になっています。身近な問題ではないけれど、この改正案で国民の意識は少しずつ変化しそうな気がします。

ご意見お問い合わせは――◆諏訪市男女共同参画推進室　TEL 52-4141　内線452
E-mail　danjyo@city.suwa.nagano.jp

□情報紙「いきいきパートナー」は古紙配給率100％の紙を使用しています。

第12号　男と女（ひと ひと） 手をつなぎ すてきなまちづくり　２００６年2.１５発行
男女共同参画情報紙

いきいきパートナー

特　集
楽しい家族の見本市！？

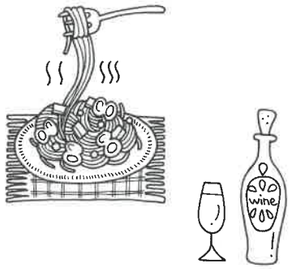
諏訪市・諏訪市男女共同参画市民協議会

楽しい家族の見本市!?

あなたの家庭の家事分担はどうしていますか？家事は女性の役割……といった意識はありませんか？
あなたも家族の一員。みんなが楽しく過ごせるように自分のできる事を分担して協力してみませんか。
今回は，男女が共に協力して家事・育児を実践している，一歩先行く家庭を特集しました。

夫は真綿に包んで桐の箱

二人で店を切り盛りしている我が家。掃除・洗濯は妻。店の掃除は主に夫。食材購入も時々は夫の役目。とっても楽しいみたい。
朝食は自分のものは自分で、夕食を作るのは殆ど妻。パスタは夫の得意料理。しかし片付けは妻。子供が親元を離れ二人の生活になってこのパターンが始まった。人前で話すことが苦手な夫は、どんな会合も全てパス。会合は妻が出番となって数十年。お互いの性格を尊重した暗黙のルール。
ご近所から「ご主人をなぜ出さない？」と聞かれたら、「ハイ、桐箱に真綿に包んで大切にしてますので」と澄まし顔で答える妻に、誰一人ぐうの音も出ない。



●50代　女性

妻の作戦

妻の体調不良と家が留守がちなため、家事は二人で分担。僕は料理が苦手。炊飯器のセット、食材の買い物、食後の皿洗い、掃除は僕の担当。洗濯も好きなのだが、なぜか？僕にはさせてくれない。この生活は定年退職してからで、昔からではない。妻から分担を強要？された。定年離婚が怖かったのか？不思議なもので二人が分かち合う習慣になるとこれが楽しく、なによりお互い感謝の気持ちが芽生えてくる。僕が所用で終日留守にすると、その日は妻がしてくれる。何か妻に申し訳ないような気持ちになる。習慣とは恐ろしい。今にして思えば、これも妻の作戦であったのかも…。

●60代　男性

聞いて引いちゃう話!?

男女共同参画って確かに硬いイメージがあるけど、そんな大げさなことじゃなくて日々の生活の中で、当たり前か当たり前でないか気づくことから始まるのよ。
男だから、女だからこうじゃなくてはいけないという考え方や常識を鵜呑みにしないことが大切なのよ。
家で、職場で、地域で「ちょっとおかしいんじゃない…。」と思っても口に出して言わなければ他人に伝わらない。足元にころがっている小さなことから話題にする。みんなで話す。そこから変えていくってことなの。

●40代　女性

共働きルール

妻が仕事以外で外出するときは快く送り出す。そんなときは私が食事の支度と子供の世話をする。妻が残業の時も、早く帰って子供たちにご飯を食べさせ、お風呂へいれる。
夫婦二人とも帰りが遅い時は、自分がいったん家へ帰って子供の世話をしてから会合に出かける。
参観日にも交代で出ている。しかし、父親の姿はほとんど見られない。

●40代　男性

専業主婦はつらいよ

専業主婦は、三食昼寝つきの優雅な生活を送っていると若い女性は憧れる。でも実態は程遠い。主婦がする家事・育児・介護は、アンペイドワーク（お金にならない仕事）として、会社などで働く仕事より低く見られ、主婦は評価されない。しかし、男性が企業戦士として働くことができるのは、家庭を支える人がいるからだ。
少子・高齢化社会の日本では、専業主婦に未来はないと思った方がいい。自分らしく、人間らしく生きるため、仲間とネットワークを組み、地域社会を変えることを考えて。

●60代　女性

最初が肝心

我が家では夕食後の食器洗い、風呂掃除は夫の役割。夫の帰宅が遅いので、家事分担量の違いは仕方ないが少しでもやってもらえれば楽になるし、私の不満も溜まらない。「必ず自分の分担はやる」というより、家事分担のベースはありつつも、その日の互いの状況を見ながら持ちつ持たれつでやっている。
そして、互いに「ありがとう」の一言は忘れない。この一言があるだけで、とても気分がいいものだ。相手を思いやる気持ちがあれば、自然とこのようなライフパターンになるのだと思う。

●20代　女性

料理のヒントは折込みチラシ

朝の日課は朝刊の折込みにあるスーパー各社のチラシをみる。本日のメインデッシュは、ほとんどこのときに決まってしまう。昨夜のうちに仕掛けておいたガス釜に火を入れ、運動を兼ねて犬と散歩する。
１日１回は買い物に出る。近頃スーパーに男性客が目立つようになってきた。
食材を求め調理して妻と二人の食事をとる。不足がちになる野菜の煮物や味噌汁はもっぱら妻の仕事で、これで結構バランスがとれている。
自分が食べたいと思うものを調理するので、いつもおいしく食べている。食べながら次はこうしよう、ああしてみたいと空想しながらやっているこの日常的な行動は、ささやかではあるが、まさしく創造の営みであり、妻だけに独占させる法はない。
しかし、第一線を退いてから始めようとしたならば、おそらく無理があったと思われる。

●70代　男性